



7月14日(日)岩殿山へ登りました。

3度目にしてやっと！というのは、今年最初の企画が1月27日(日)「岩殿山ハイキング」でしたが、雨で延期。延期した2月3日(日)、今度は雪。この日は集合した小野さん、関野さん、町田で「雪の昇仙峡」へ出かけました。

岩殿山というと雨というイメージができてしまい、しばらく見送っていましたが、やはりどうしても登りたい風貌の山なのです。中央本線に乗っていて大月駅手前で見えてくる「岩殿山」にはそそられます。

そして、7月14日(日)晴。念願かなって、「岩殿山ハイキング」。岩殿山は、その風貌通り、私たちの期待を裏切りませんでした。スリリングな岩場があったり、大きな岩の上に立った時のゾクゾクする感じ、まさに中高年ハイカーのロックガーデン、十分楽しませてくれました。

その後、中央高速で近くを通ることが数回ありましたが、車から「岩殿山」を見るのはかなりむずかしいようです。「岩殿トンネル」を通過するとき、“この上か...”と思います。



町田から1110円!!で改札通過

3度目の正直で晴れた7月14日(日)、橋本駅で宮部忠和さんに会います。お互い切符を買って、改札を進むところで奥さんがいないことに気がつきます。「奥さんは?」「いやそれが、家内は足を痛めまして」なんでも、エアロビクスのやりすぎなのか...?、ふくらはぎに痛みがあるということで、今日はお休みということ。原因は明確になっていなくて、それだけに、いろいろな人がいろいろなことを言うようです。動いた方がいいとか休養した方がいいとか。なんとも言えませんが、私たちのような凡人の場合、プロではないので、ゆっくり治した方がよいかもしれません。

八王子駅には、小野勝彦さん、加藤忠さん、加藤純代さん、河合稔さん、横山和明さんが集まります。7時37分の高尾行きで高尾へ、高尾で河口湖行き電車に乗って大月駅で降ります。夏、暑いせいなのでしょうが?いつもはハイカーで賑わう電車もこの日は空いていました。大月には8時34分に到着。ここでハプニング、小野さん切符を紛失したようです。駅員に「ここまでいくらでしたか」と聞かれ、すかさず「1110円!!」と答えて、「ならば信じましょう」ということで改札を通過できたようです。ちなみにその切符はハイキングの途中で現れました。ついでに、帰りの大月駅で渡し忘れました。別に悪いことは何もしていないからまあいいんじゃないかな?

雲隠れしてもダメ

駅を出て左方向へ、浜野屋という旅館の角を曲がって駅前商店街を歩きます。商店街というよりは飲屋街という感じ。帰りはここであって、みんな同じことを考えてしまったよう



です。線路の向こうに見える東京電力をめがけて踏切を渡ります。東京電力を左に通り越し、突き当たりの道を左に折れ、しばらく行くと国道139号線にぶつかります。桂川を渡り、中央道を越えたところに登山口がありました。下を走る中央道を背中で見下ろすようにしばらく上ると、岩殿山の山門があり、これをくぐってすぐ、丸山公園に到着。土俵のような展望台からは富士山が...。富士山はまさに雲隠れ?でも、あれに違いない。雲に隠れた富士山をバックに記念撮影して出発します。

愛の携帯電話...カナ?

整備された登山道(?)をぐんぐん上ります。鎧岩方向との分岐をとりあえず、岩殿山方向に進みます。揚城戸跡を通り抜けるとすぐに岩殿山山頂です。登山口から40分。なんともあっけなく山頂に着いてしまいました。再び記念撮影をして、ここからの景色を楽しみます。電車から、駅から、登る途中で見た岩のドームの上に立っているのです。が、なんだか実感が湧かない。でも、柵越しに下を見下ろすと、





中央本線、桂川、中央道、そして、さっき、記念撮影した場所
が確認でき、気持ちよい風が舞い上がって来ます。
せっかくなので、岩殿城跡を少し散策して、鎧岩方向の分岐へ
戻ります。途中で宮部さんの携帯電話が鳴ります。奥さんから
のメールが入ったのでした。「今日は何人の参加ですか？」と
いうもの。“次回は是非参加を。寿司が待ってます。”



命がけのアスレチック・ロックガーデン

分岐からは緑の中の下り坂となりました。ハイカーの行き来より
も回りの植物の育つ勢いが勝っているのでしょうか、緑をかき
わけるように進みます。下りきったところが「築坂峠」、ここ
から、また上りが始まります。10分ほどで鎧岩、くさり場で
す。先に行くハイカーの登る姿を見て、みんな真剣な眼差しに
変わり、くさり場を登る準備にとりかかります。でも、登り始
めれば、傍から見ていたほどのことはなくて、どうにかなるも
のです。鎧岩クリア。

尾根を歩くこと10分、またくさり場、兜岩です。今度の方が
危険そうに見えます。細い道を進み(左へ落ちたら命は無いか
も) 傾斜も急でさっきより長いかも...?。でも大丈夫。オッ
と思うのはそこを見た時です。ここでドキっとして、でも、行
けそうと思うから行くわけで、行っちゃえばもう大丈夫。行け



なかったら引き返しましょう。みなさんドキッとして呼吸を整
えてなんとなく兜岩もクリア。

下を見る勇氣 ありません

時刻は11時20分。稚児落しまで行って昼食にすることにし
ます。稚児落しまでは緩やかな尾根歩きです。そろそろお腹も
空いてきたし「稚児落し」ってどんな場所なのかな...?。お
弁当を広げる場所はあるかな...?。などと考えながら歩いて
いると、その場所が見えてきました。松林越しに見える断崖。





傾斜はほとんど90度。ずっと下まで岩。ここを登るなら引き返します。間違えなく。回り込んで先程松林越しに見た場所の上に立ちます。風が気持ちいい。でも絶対に下を見たくない！ちょうど正午を少し過ぎた頃、ここで昼食です。思ったよりは広がっている岩の上でお弁当を広げたいところなのですが、少々風が強いので、稚児落し真上から少し離れた木陰に陣取りました。どんなに暑くても、やはりお湯を沸かして、カップラーメンやみそ汁を飲みたくなるものです。汗で失った塩分と水分をゆっくり身体に流し込むことで、なんだか元気を取り戻すような気がします。



武田氏と小山田氏、そして信長

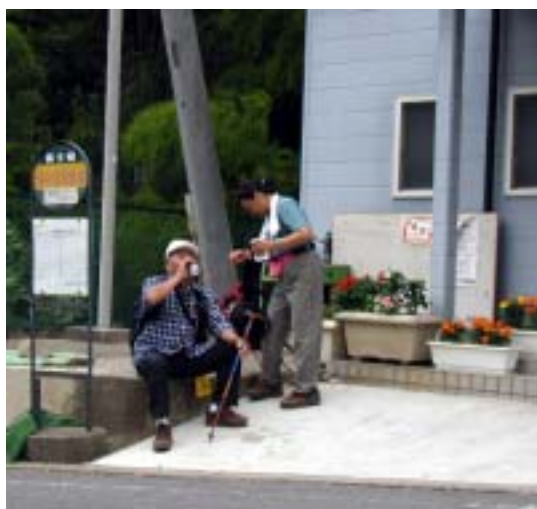
この「稚児落し」の地名の由来ですが…。岩殿山の山頂にあった岩殿城の城主、小山田信茂は武田勝頼（武田信玄の息子）の家臣として活躍していました。1575年「長篠の戦い」で武田軍は、徳川・織田連合軍に敗北します。その後、勝頼は北條氏

と手を組むなどして、甲斐の国を守りましたが、1582年、徳川・織田軍に攻め込まれます。自分の城を焼き捨て、岩殿城に逃げ込むはずでしたが、小山田氏の謀反で行く手を阻まれ、天目山で自害し、武田一族はそこで滅亡しました。織田軍に身を寄せるはずだった小山田氏は、織田信長から不忠者ということで処刑されました。残された小山田氏の妻子は、岩殿城からここまで逃げましたが、ここで子供を投げ、自らもその命を絶ったとうことです。ちなみに、小山田氏は町田の小山田城跡や成瀬城跡と関連があるかもしれません。興味がありましたら、インターネットで検索してみてもいいのでは？

下山したらビール

風が強く吹いているかと思うと、無風状態になったり。こんな場所でも昼寝をする小野さんは強者かも…。まあ、ここから大月駅へは1時間ほどですから、ゆっくり休憩します。午後1時、そろそろ出発です。

緩やかな下りです。所々、木の根や岩が下るスピードを殺してくれますが、鎧岩や兜岩に比べたら何でもありません。20分ほどで山道は終わり、車道に出ます。ここが浅利集落です。こうなると、「暑かったなあ」ビールしかないじゃない！まだ営業していない飲み屋も宿屋ものぼりがあればみんな酒屋に見えてきます。密を求める働き蜂状態。そして遂に酒屋発見！浅利公民館バス停前に酒屋あり。缶ビールで乾杯！大月駅行きのバスが来ても無視！ほろ酔い気分みんなで歩こう！大月駅午後2時47分の中央快速で八王子へ、横浜線で橋本へ。最近恒例となった橋本の飲み屋で打ち上げです。ここでの話題は、9月の小野さんの別荘宿泊プラン。今から楽しみですよ。





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
加藤忠	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
加藤純代	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
宮部忠和	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
河合稔	194-0000	東京都町田市下小山町 2979-2 042-797-1611
横山和明	195-0062	東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662

